

下里豪志さん「ロシア」(Vol.2)

「イタリア留学へのきっかけ」



生です。

レオニード・マルガリウス

ウクライナに生まれ、レジーナ・

ホロヴィッツ(彼女の弟は世界一有名な、ウラジミール・ホロヴィッツという偉大なピアニスト)の愛弟子としてロシア音楽界黄金期を見てきた貴重な存在。モスクワ音楽院首席のロシアピアノニズムの名教師。

次回！イタリアでロシアピアノニズムに出会う!?お楽しみに！

オペラの国イタリア。ピザ屋のお兄さんがまるで俳優のようなルックスとオペラ歌手のような声…日常のすべてが鮮やかな国イタリア。そこになんでピアノで留学したの？少しクラシックに教養がある方からは質問されるんです。

はなく海外にいこうと本気で思い立ち、自分と向き合いました。海外の先生の公開レッスンを受けたリ、聴講したり…するとそれまでドイツに留学しようと思っていたのに、ドイツ人の先生にときめかない…その反面ロシア系の先生のレッスンには自分も惹かれるし、先生に必ず私の手と音楽を褒められる。これかもしれない。

私は中学生の時から、海外経験のある演奏家や審査員から「君は海外にはよく行った方がいい」と言われていました。でも当時周りに留学を経験した人もあまりいないし、今ほどネットでなんでも見られるわけではなく、漠然と留学する日を遠い未来に考えていました。大学2年生頃、国内の大学院で

そう思いました。(もちろんフランス人も大好きでしたが、当時素敵だと思っ先生がこぞってパリを離れたために留学候補からは除外…)でも、東京の寒さですら耐えかねるうちなんちゅうが、極寒のロシアに行けば勉強の前に生活に耐えるだけ留学を終わらせてしまおう…そう思っていたんですね。

そんな時に出会ったのがイタリアでのちに私の人生を大きく変えることとなる、師匠マルガリウス先



文化の泉 宝物

No.78

問 文化センター

☎ 8899-17399

ひとりひとり 異なる体験 —その2—

6月号に引き続き、7月号も文化センターで開催中の企画展「逃げ場なき沖繩南部追いつめられていった人々の体験」の展示内容の一部を掲載します。

今回は、南風原出身者ではありませんが、南風原に関する証言をされている、一中鉄血勤王隊の宮平盛彦さんの証言を紹介いたします。

宮平さんは西原町出身で当時15歳、県立第一中学校の二年生でした。家族と防空壕に避難中、通信隊へ入るよう指示を受け、その後、電信第36連隊の第6中隊に配属されます。第6中隊は、南風原の本部に拠点をついた部隊です。

宮平さんの主な任務は、首里城南の崎山御嶽の近くにある壕と首里城内の通信指揮所を伝令で行き来することでした。激しい攻撃の中で伝令は、とても危険な任務でした。

5月末、宮平さんは部隊と南部へ撤退しました。6月23日に部隊は糸満の山城で解散しますが、広島出身の兵士と隠れ続けました。その後、北部への突破を目指す途中、8月の終わり頃に津嘉山にたどり着きました。

津嘉山到着後、高津嘉山の日本軍の壕に行ってみると、5名の兵士が隠れており、一緒に隠れることにしました。

そして、10月14日頃、2人の日本兵が壕を訪れます。2



現在の高津嘉山